

第5回勝山市立中学校再編準備委員会 議事録

(1)日 時：令和5年2月21日（火）午後7時より、（教育会館 第3研修室）

(2)参加者：委員（18名）（4名欠席）、事務局7名、報道2名、傍聴10名

(3)内 容

①委員長あいさつ

②協議・報告事項

・基本計画（案）について

・各部会からの報告

① 《委員長あいさつ》（省略）

② 《協議・報告事項》

委員長 ・それではレジメにしたがって会を進めたい。はじめに基本計画（案）について協議をしていきたい。事務局の方から説明をお願いしたい。

（基本計画（案）について）

（パブリックコメント結果について）

（勝山市の子ども子育て保護者説明会アンケート結果について）

事務局 ・基本計画（案）について報告と今後の方針を述べさせていただきたいと思う。今年度は昨年策定した再編計画をもとに基本計画を作るということで、委員の皆様方に一年間いろいろな部会で協議をしていただいた。いよいよ年度末でこの基本計画（案）をこのまま策定したいと思っている。これについては1月に入ってから基本計画（案）のパブリックコメントをひと月間とらせていただいた。それと並行して勝山市の子ども子育て保護者説明会という形で、各小学校区で0歳から15歳までの保護者を対象にした説明会を行い、その中でも中学校再編の説明をさせていただき、意見をいただくとともにアンケートにご協力いただいた。そういったことを受けて今後の方針を後で述べさせていただく。

まずパブリックコメントの結果についてだが、1月11日から2月10日までの間パブリックコメントを募集して19人から提出意見をいただいた。これについては、この後市の考え方を付してホームページで正式に公表すると言う手続きを取らせていただく。今日はいただいた意見の主な意見をピックアップしてご紹介をするという形で報告をさせていただきたいと思う。実際のコメントの分量は一人一人違ってすべて原文のまま載せるというわけにもなかなかいかないので、ご意見とか提言の部分を取り出して記載したものとご理解いただければと思う。

（パワーポイントでパブリックコメント結果の概略を説明）

次に1月11日から各小学校区毎に9会場で開催した勝山市の子ども子育て保護者説明会、その時に実施したアンケート結果の概要について報告をさせていただく。この説明会は0歳から15歳までのお子様がいる保護者を対象として勝山市が来年度から子ども政策を担う部署を教育委員会に一元化とする機構改革を行うので、これを踏まえた今後の子ども子育て支援策等について、それから中学校再編についての二点について周知をするために開催したものである。当日はそれぞれの説明の後、参加者の方にアンケート

をお願いした。本日は、この中学校再編にかかる部分のアンケート結果の概要を報告させていただきたいと思う。

(パワーポイントで勝山市の子ども子育て保護者説明会アンケート結果の概略を説明)

パブリックコメントを実施した基本計画(案)については、ご存じのように新しい中学校を建設することに向けた具体的な設計の仕様書となるものである。内容としては新中学校の学校像をもとに校舎や施設整備に掛かる計画を記載したものとなっている。従って教育内容の詳細とか、スクールバスの運行や部活動の実施などについては各専門部会で検討は進めているが、記載していない。パブリックコメントにおいても、記載がない、情報が不足だというようなご指摘もいただいているが、こういったことについては基本計画策定後に来年度以降の再編準備委員会等でさらに検討を進め、説明会とか市の広報、ホームページ等も使って周知に努めてご理解をいただいきたいと考えている。またパブリックコメントでは計画に反対の立場からこれまでの検討経緯に対するご意見などもいただいている。これについては市議会の方でもお答えさせていただいているが、長年の協議とか検討の中で方向性の変更も行いつつ、昨年再編計画を策定して、関連の予算については市議会でもお認めいただいて今年度計画を進めている状況にある。後半の報告にもあったように、保護者説明会に参加された保護者の方々には、アンケートの結果から一部反対の意見もいただいているが、概ね前向きに受け止めていただき、今後の検討に参考となる意見もいただいている状況である。このことから事務局としては、今回のパブリックコメントを踏まえて、勝山市立中学校建設の基本計画(案)を修正するという判断には至らなかった。この後委員の皆さまの了承を得られれば、現在の案のとおりで3月市議会に報告をさせていただいて、関連の予算についてもご審議をお願いし、もしお認めいただければ来年度以降、さらに計画を推進してまいりたいと考えているところである。この基本計画(案)の審議についてよろしくお願ひしたい。

委員長 ・ただいまの事務局の方から説明したことについて委員の皆様からご意見等あればお聞きしたい。

委員1 ・話を聞いて、なるほどこういった形で進めばいいかなとは思っているが、本当に一部、アンケートで地下道について50%少しということで、どんな条件付きでも50%台は非常に厳しいと思う。心配するのは、地下道は仕方がないにしても、どの場所で、こういった形のもので、止水の堰を作るかというその場所が具体的に全く無い。ジオアリーナの階段の下まで行くのか、それから後ろの入り口からスタートをするのか、どういう方法で止水どめをやるのか、具体的にしてもらわないと皆さんが不安になると思う。これから50%から向上する形で考えていただくといいと思う。

委員長 ・地下通路について今後検討がさらに必要なのではないのかというご意見でこの間の総務部会でもいろいろご提案もいただいている。これについて事務局の方は何かあるか。

事務局 ・地下通路については、これまでも安全安心の確保とか防災への対応について心配の声などもいろいろいただいているところである。基本計画においてはジオアリーナと学校とのアクセスの利便性を上げたいとことから設置をし

たいということで、計画に盛り込ませていただいているところ。併せて防犯防災の対策についても現在検討している内容を基本計画（案）の方に掲載させていただいている。実効的にするためにはそれを設置した上で、その効果をしっかり検討する必要があると考えている。もう一つ、地下通路は国道の下をくぐることになるので、県との協議も必要になってくる。その協議については、進め始めているところである。協議の中で地下通路の運用等についても、皆さん方の意見を踏まえて要望もしていきたいと思っている。どこまでその協議が進むかは約束はできないが、できるだけ安全、安心、防災の面が確保できるようにこれからさらに取り組んでいきたいと思っている。この基本計画が策定ということになれば、来年度は具体的設計に入っていく段階になるので、その時点で今、心配になっているようなことについて具体案を練りながらお示しして意見を聞くようなことができると思うので、皆さんに安心してもらえるような案となるようにしていきたいと思っている。現時点で情報が不足というご指摘は確かにあるが、そのように思っているので、案としてはこの形で進めさせていただければありがたいと思っている。

委員長 ・事務局の方から総務部会の話も受けて説明があり、今後の検討の中で提案があることでご了解いただけるか。

委員 2 ・了解するしか仕方ないと思うが、こういった重要な会議の中で、玄関をここにして、こういう設備にするとかを踏まえた上でやってもらった方が、皆さんに説明するのも楽になる。宙に浮いている、ただ地下道だけしてそこからジオアリーナへ入っていくことだけしか出来ていないから、どこに入り口を作ってどの程度して山の下へやるのか、入り口を長くすれば落差がだんだん低くなって階段状でも低くなって条件がよくなる。これで後ろ側へ行って和みの杜の墓の近くまで行けばものすごく長くなる。費用はかかるがやり方はいくらでもあると思う。その辺はこういう説明の中でしてもらおうとありがたい気がする。

事務局 ・基本計画（案）には 43 ページになるが、今の時点での地下通路のジオアリーナ側の出入口、これはジオアリーナの後ろの方に施設に入る出入口があるが、その近くへという案の図が出ている。スクールバスの乗降との関係でこの出入口について、国道側に少し動くというところは、今後の検討として残っている。基本的には、この場所に地下通路の入り口を設けて、勝高側は校舎の設計とかデザインにこの後絡んでくるので、ちょうど道のところで地下通路は切れている。このまままっすぐ校舎の方に向かっていき校舎に直結するかどうかは今後の中学校の校舎との関係でも決まってくるので、まだハッキリしていないが、この場所にとすることは考えているところである。

委員長 ・現状のところでの説明、次年度に向けての検討ということで、事務局の回答があったので、よろしくお願ひしたい。

委員 3 ・この図面だと少し書き方がおかしい。これだと表側に出る。前はスクールバスは裏側に行って玄関で生徒を降ろすという話だったと思うが、だんだん変わってきている、まあいい。

委員長 ・その辺りはまだ未確定な状況での図面だと思う。今後いろいろな面でご指摘いただいている点も含みながら、継続的に検討していく問題だと思っているし、総務部会でもそのような話が出ていた。他の委員で何か意見はあるか。

委員 4 ・この基本計画（案）のポイントを検証したいということで、現在、中学校の方では可能な範囲でこういった案を取り入れた教育課程を作ろうと試行している。一番人気の高かったキャリア教育とかICTとかの時間を作り出そうとしていくと、子どもの学校にいる時間の本当に5分、10分をどう削ってそこにつくっていくかということが非常に難しい状況になる。大人から見ればすぐにできるだろうということが、なかなか中学生はできないこともある。そういったことを施設的にこうしておくともっとスムーズにできるということがこれから見えてくると思う。基本計画（案）の柱を変えるわけにはいかないと思うが、少しこうすると便利なのにとか、こういうふうにすると子どもの動きがスムーズになるのにとかということが出てこようかと思う。今後出てくるいろいろな気づきを是非取り入れていただける余地を残していただきたい。

委員長 ・この基本計画（案）に関して、子どもの動きとか時間とか細かい部分での調整が必要な物が出てきた時に、微調整ができるようなことが必要ではないかという意見だと思う。

事務局 ・基本計画（案）に示しているのは、基本的な方向性ということで、少し具体的に欠けると批判もいただいているが、さらに教育内容などを具体化していく。それが今後の作業だと思っているので、その都度周知していくということを考えている。当然、その検討の中でこうしていく方がよりいいのではないかということが出てくると思うので、縛られずにいい方向に持っていきたいと思っている。例えば今時間を生み出すという話もあったが、中学校の一時間の授業は50分というイメージが皆さんあると思う。ほとんどの中学校がそうだが、実は今、子どもの時間を生み出して主体性を育てるとか、そういった観点で県内においても一時間の授業を45分授業にしてそれで生み出した時間を子どもに返していくというようなことを、先進的に取り組んでいる学校もある。県外まで広げると、いろいろな考え方があり、授業時間は50分と決まっているわけではないので柔軟に考えてやっている動きも出てきている。そういった情報とか成果のようなものもいろいろ調べながら、勝山の教育に生かしていくことができればと思っているので、今後の検討ということでよろしくお願ひしたい。

委員長 ・その他にどうか。この基本計画（案）についてよろしいか。では今回の準備委員会最終のこの基本計画（案）を事務局の方から市議会に報告させていただいてよろしいか。

（頷き多数）

委員長 ・ありがとうございました。この後は、それぞれの部会でいろいろな協議をしてきたので、各部会の協議内容とか報告、さらには次年度のことについて時間を使っていきたい。

（各部会からの報告）

（総務部会・学校運営部会について）

学校・総務 ・まず総務部会と学校運営部会について報告をさせていただきたいと思う。

部会長 総務部会は、3つの部会をいろいろ調整する機能を持っているわけだが、なかなか今年度開くことができなかった。1月に開催した部会で、どんな意見が出されたのか、どんな審議をしたのかを簡単に説明したい。資料2の1を

見ていただきたい。本年度の再編準備委員会に関して各部会がどんな動きをしてきたのかを一覧表にしたもので再編準備委員会は、今日を含めて、第5回まで協議をしてきた。学校運営部会は2月の14日までで、5回の部会を開いている。この学校運営部会と合わせて、中学校、高校の先生方の意見をいろいろとお聞きしたいということで、ワーキングチームを立ち上げて、現場の先生方の声をかなりたくさんワーキングの会議で聞いている。1月の25日までを含めて9回、いろいろな学校の現状、子ども達のいろいろな動きなども詳しく協議いただきながら、学校運営部会であるとか、その他の施設の面にも反映させていただくというような機能をしてきた。特に学校運営部会の方は、ワーキングチーム会議の意見などを含めて、新中学校の学校像をしっかり考えていく協議を中心に進めてきた。中学校の学校像については、基本計画（案）の4ページのところに記載されている。かなり長時間にわたって議論を積み重ね、行ったり来たりしながら、非常にこの学校運営部会の中で中心テーマとして議論してきた。その中でも特に中心になったのが新しい中学校が勝山の教育の中核になるということを議論の中心として練り上げてきた。これから子ども達にどんなことを期待していくのか、どんな力を付けたいのか、こういうことを現場の先生も含めて議論しながら、そういう学校づくりをするために、誕生から18歳までの子ども達を市民総がかりで支援していく、そのためには新しい中学校が中心になる。それを提案させていただいて、時間をかけながら議論し、その内容について計画案の中に書き込んだ。現場の先生方から教育環境をどう変えていったらいいかを一つ一つ、建築の方の部会へも反映ができないかなど意見をかなり聞き取りながら、丁寧な作業をこの一年間進めてきたことを報告させていただく。

（PTA部会について）

委員長 ・次にPTA部会について部長から報告をお願いしたい。

PTA部長 ・今年度PTA部会の方で話してきた内容についての報告をさせていただく。PTA部会では、今年度は主にスクールバスに焦点を当てて、決して結論を求めるのではなくて、まずはいろいろな意見や案を積み上げていくということを目的に議論の方を進めてきた。具体的にはスクールバスの発着場、スクールバスの運行ルール、および運行ルートに関する3点に関する意見を各校区の実情に合った視点から取りまとめてきた。まずスクールバスの発着場に関して、現在の勝山高校正門前、旧合同体育館跡地、ジオアリーナなどの候補地が上がった。現在の勝山高校周辺における交通混雑、並びに近隣住民の方々への迷惑を考慮するとジオアリーナの駐車場が良いのではないかとというような方向性が打ち出された。それに付随して送迎される車も増加するようなことも想定される状況下において、やはり横断歩道を渡っての移動は危険な面があるのではないかとということもあった。続いてスクールバスの運行ルールについて、当初は乗り換え方式によるハブ方式案というものと乗り換えなしでの直行方式案といった2案が提示された。これについて、利便性および安全性の両面からやはり直行方式案が良いのではないかとということで、直行方式案を主軸に検討して、ただしハブ方式案についても、地区によってはその特性によって必要性があるかもしれないので採用の可能性も残しておき、基本的には直行方式案に主軸を置いて検討する方向性が出された。そこで直行

方式案を軸にスクールバスの運行ルートを、バスの運行会社及び勝山市の方で調整していただいて、複数の可能なルート案を提示していただいた。これが第3回目の会議の折に提示された内容で、今お手元の資料の3の1と資料の3の2に該当する。第3回目のPTA部会においては、これらのルート案について各中学校区に分かれてワークショップ形式での協議を行わせていただいて、それぞれのルートにおける良い点、悪い点を洗い出して、それらを次年度への引継事項として取りまとめさせていただいた。第3回部会で出てきた意見は参考資料の2に第3回部会PTA部会での意見の抜粋について掲載させていただいているので、ご参照いただければと思う。この3点以外に貴重な意見としてはバスの乗降メールの配信機能とか、バスの位置情報の配信などソフト面を充実させるなどの要望も出た。とにかく子ども達の目線に立って現実に沿った意見が多数出されたということをご報告させていただく。今後はこれらの案を軸に、さらに掘り下げさせていただいて、より現実に即した内容に組み上げていくと同時に、土曜日とか、日曜日及び祭日の休日の運行とか、運行の便数、出発時間、乗車時間とかがまだまだ検討材料として残っているので、さらに検討を進めていく予定である。以上がPTA部会の報告になる。

(施設整備部会について)

- 委員長 ・最後に施設整備部会長の方からご報告をお願いしたい。
- 施設部会長 ・これまで行ってきたことに対して報告させていただく。この基本計画(案)の21ページから最後の部分までに至る学校建築をどう造っていくかということについて話し合ってきた。トータルでA案からG案の7案で教育委員会の人たちのご協力のもとに出していただきながら、このプランに対してはどうかということを考えていった。7案すべてを基本計画(案)の中に入れるという判断をして、最後のページを見ていただくと、大きな試算を出すことができたということになる。基本計画で大事なこととしては全体としてどういうボリュームになるのか、それに対してお金がどのぐらいかかるのか、そのお金を出せるのかということをお話し合っていくことが必要だと思うので、まずここまでできたということが大きな成果かなと思う。今後どうしていくかということ、このA案からG案までいろいろ案があるが、それを一つに絞って具体的などという学校にするのかを検討していかなければならない。階数にしても構造にしても、どういうことが一番勝山にとっていい学校になるのかということをお話し合っていく必要はない。今後は設計士を決めていく必要がある。今までは勝山の教育に詳しい方々に集まって話していただいたが、建物の設計に詳しい設計事務所さんにも加わっていただくことになると思う。それを決めるためのプロポーザルを来年度は行っていくことになると思う。資料4を見ていただきたいが、来年度の予定として、まず一番目に新校舎について業者を選定し基本設計に移るとことになる。今までは基本計画という言葉でいろいろな目標を書いていたが、基本設計は図面を描きながら形で具現化していくということを行っていく。その他に特別教棟について県と協議をしながら進めていく。一緒に理科室とか家庭科室とかを勝山高校の方の棟でやっていくにあたって、どのように使っていくのかということを決めていく。地下通路や備品、学校図書の精査について、何をもつ

ていくのかということも決めていかなければならない。そういうことを確認し合って、先週の2月14日に施設整備部会の方で話し合った。参考資料3にそこで出た委員の方々の意見を掲載させていただいている。学校として建物が箱物でできたらいいというわけではなく、デザイン的なことや、教育方針が決まっていたので、それが可能な場所をしっかりと造っていくことの意味もいただいた。ZEB化という環境配慮の建物を造っていくにあたって、造りましたよということではなく、それを生徒達が、学校にはこういう仕組みがあって環境に配慮していると理解して、教育できるようにしていこうという意見だとか、せっかく学校をつくるのだから生徒に参画してもらおう、もし基本計画が策定されれば生徒が新しい学校にかかわる機会も増えていくので、そこにどのように生徒に関わってもらおうかという意見をいただいた。今年一年、いろいろなアイデアを出していただいたが、多い意見が正しいのではなく、少ない意見の中にも貴重な意見があるかもしれないので、今年出た意見を全部大切に持って次年度に持っていこうという話になっている。以上で報告を終わりたい。

委員長 ・後ろの方にどんな議論をしてきたのかということについて資料があるので、部会の協議内容等ご確認いただければ非常にありがたい。資料2の2に、来年度考えていかなければいけないことを案の状態であげている。総務部会では具体的に学校の名称とか校歌とか校章についてそろそろ検討を始めなければいけないのではないのか、学校運営部会のところでは時間割とか教育課程であるとか、学校行事の計画とかの検討に着手する必要があるということが示されている。部活動については、今部活のあり方がいろいろ議論されているが、そんなことをにらみながら検討していく。PTA部会と施設整備部会は今ほど部会長の方から説明をいただいた。今後のそれぞれの部会について、いろいろな課題があったり協議しなければいけないことがたくさんあったりするが、皆さんの方から今回の部会の振り返りと来年に向けての何か提案等があったら発言をいただければと思う。少し指名させていただく。まず中学校の立場からお願いしたい。

委員1 ・ワーキングチームの方の報告をさせていただく。この新中学校像をどうするかということが一番の大きなテーマであったことを先ほど話があったが、この中学校をどうするかということよりも、議論する以上いかにいいものを作るかということに集中して議論をした。最初は議論をしてもなかなか上手く噛み合わないということがあったが、会を経るごとにいろいろなものが焦点化されていったように感じている。特に若い先生方が、普段学校の中で議論をすると、どうせ議論をしてもこの枠でしかできないからそれ以上のことは無理でしょうと考えていたものが、新しい学校を作るのであればもしかしたらできるかもしれないというスタンスで話すようになったというのが非常に印象的であった。特に自分自身もそういう議論の中で、作るのであれば日本一の学校をつくらうという気持ちになっていった。その一つが、単に一つの中学校にして高校と一緒に場所に作ってというだけではなくて、勝山の子を産まれてから高校を卒業するまでみんなの手で切れ目なく支援していく、そういう教育を創る中核施設をつくるんだという思いでこの学校を作るところに、共通理解が図られたような気がした。もう一つは、恐竜博物

館の横に県立大学ができて恐竜学部がやってくる。そこを一つの核とした場合に、この長山公園近隣の一角を改め、文教ゾーンとしていくという壮大な思い、そしてこの勝山の町を恐竜王国になぞらえれば教育王国というか全国に名を馳せる教育の町勝山を作っていきたいという高い思いになっていったというのが正直なところである。そういった思いを持って、現に一つは、3中学校の校長がやれることを一緒に考えてみようという合意形成を図った。そこに参加した若い教員が核になってやれることをやってみようと、学校の時間を生み出すために、子どもの主体性を育むためにこういった時間を作っていこうということで、45分の授業を導入してみようではないかとか、そういう時間を作ってみて子ども達に任せてみようではないかとかいうような議論が活発に交わされているところである。ぜひ何か良い成果を上げて次につなげていきたいなと思っている。非常に私も含めて参加させていただいた教員がよい勉強をさせていただいたなと感じている。

委員長
委員 2

- ・何かなければ次に高校の立場から話をさせていただきたい。
- ・高校の立場でどのような話をしたかという、新中学校の学校像等話の内容としてはいろいろあったが、その中で特に現在勝高がやっている探究学習の様子、今年から勝高タイムという通称KTと呼んでいる生徒の自主的な教育活動、生徒が自主的に学習に取り組む時間を7時間目に月曜日から木曜日に配置して導入させていただいたが、そういう様子とかを紹介させていただいた。そうした中で、探究学習にしても、生徒が主体的に取り組む学習にしても、中高でスムーズに繋がるといいよねとか勝高と隣り合わせになることによって、6年間を見通してどんどん計画の下で交流できるといいよねとか、お互いを高め合えるといいねという確認をする機会になったのではないかなと思う。本校の活動が新聞等のメディアにも取り上げていただいたので、そういう様子をどんどん発信することで、中学生や保護者、地域の皆さんに伝わっていくといいという話にもなっていたかと思う。来年度に向けては、今少しずつ始めているが、教員も生徒もどんどん中高で交流する場が増えてくるといいなと思っている。今年度の場合も、中学校の探究活動の発表会に高校生が行って意見交換をさせていただいたり、生徒会同士の交流をさせていただいたり、あるいは本校の特徴でもある日本文化部が太鼓の演奏を披露させていただいたりという交流もやっているが、さらにいろいろなアイデアを出してそういう場を増やしていきたいなと思っている。さらに先生方の交流ももっとどんどん進めていきたい。現在、お互いに中学校の先生が高校の授業を見に来てくださったり、高校の先生が中学校の授業を見に行ったりという活動を少しずつ増やしてきている。中学校ではこのように教えているのかとか、高校ではこんなことをやっているみたいな理解が進めば、自分の学校に戻ったときにさらに授業力の向上につながるのではないかなと思っているので、そういうことを増やしていきたい。先生が移動する方が、生徒が移動するよりも簡単にできるので、さらにどんどん増やしていきたいと思っている。実際いろいろなことを話していく中で、やはり大切なのは勝山高校自身が、中学校の保護者の方や中学生の皆さんに魅力を感じていただけるような学校に飛躍することだなと思っている。私は4月に赴任してもうすぐ一年になるが、私が想像していた以上に生徒は本当に生き生きと活動してい

る、そういう姿をこの一年見させていただいている。魅力をもっと高めていくのはもちろん大事だが、それをどんどん積極的に伝えていきたいと思っている。今年度探究特進科がスタートしたし、令和9年度に向けて中学校が併設されるという機会は、勝山高校がさらに飛躍する絶好の機会かなと思っているので、全教職員が一致して頑張っていきたいと思う。勝山市内の唯一の学校としてさらに飛躍できるようご理解、ご協力をいただければと思っている。

- 委員長
- ・それでは学校が続くが小学校の方を代表して報告をいただければと思う。
- 委員3
- ・勝山市の小学校の九つの小学校が一つの中学校に集まるという視点を、小学校の方でもっと持たないといけないなとこの会に参加させていただいた。年度末になってきて、子ども達の様子を見てみると、4年生の子達が第一期生になるんだなあという目で少し見る。勝山市のいろいろな子ども達と一緒にになったら、この子達はどんな力を発揮するんだろうと非常に楽しみな気持ちもあるが、単級の小学校が非常に多くてクラス替えということも経験してこない子ども達が多い。その中でいきなり5クラスの中学校になったときに大丈夫だろうかという心配ももちろんある。今までは三つの中学校が一つになるという、そういう頭でいたのだが、九つの小学校が一つになるという視点で、小学校同士の交流だとか、自分の今の中学校区を越えたつながり、市内一円を見た交流を進めていき、いろいろな子と一緒にするのが楽しみだと思えるような小学生を作っていく。その中でも立派にやっていける小学生にしていくことが、小学校として令和9年度までに必要だと感じている。不安なこともあるが、今の一年生は八つの園から子ども達が来ている。一人とか二人とかいう子どももいる。一学期はガチャガチャしているが、一年を終えようとしている一年生を見てると新しい友達関係を作って、新しいクラスの中で集団としていろいろなことをやっていっている。非常に逞しくなった子ども達の姿を見ると、九つの小学校が集まるということが楽しみだと思っている。保護者の方にもそのように思っただけのようにこれから小学校はやっていかななくてはいけないということを強く感じている。
- 委員長
- ・ワーキング、学校のさまざまな運営に関する部会の報告、今後の検討の重要なポイントをいただいたと思うので、上手く引き継いでいけるように、今後、この委員会の中でも議論を深めていくことができればと思う。それではPTAの皆さんから少し振り返りをさせていただければと思うので、お願いしたい。
- 委員4
- ・4月の28日に第1回目の準備委員会が始まり、これまで多数の会議に保護者の代表として参加し貴重な体験をさせていただいた。総務部会と施設整備部会に所属していたが、当初は校舎をどの位置に建てるかとか、玄関、そして勝山市が目指すこれからの学びに大いに役に立つであろうメディアセンターや多目的室の構造など、新中学校の校舎の要となる部分に携わることができた。そして委員長や部会長や部会のメンバーの方々、教育委員会の方々から話を聞くことや意見交換をすることで、皆さんの勝山の教育を良くしたいという思いを感じる事ができてとても嬉しかった。また自分もそのように強く思うようになった。これからこの新中学校を軸に勝山の教育はよりよいものになっていくと思うが、保護者も子ども達の学びをサポートできるよう

な環境を作っていくことが一番大事なのかなと思う。子どもも良い方向に変わっていき、保護者も一緒に変わっていく。そんな流れが勝山市全体に広がっていくと本当に素晴らしいことだと思う。来年度はさらに具体的な話し合いや計画の実行が行われていくと思うが、熱意や知識や経験のある方々ばかりなので私の期待以上の学校ができると楽しみにしている。

委員長 ・それでは高校の方から少しよろしいか。

委員5 ・しっかり考えてこなかったのであまり意見は言えないかもしれないが、今皆さまの意見を聞いていて、少し勘違いをしてしまう方もいるかなと思った。新中学校に行ったら勝山高校に行かなくてはいけないという流れではダメだと思う。新中学校を卒業して高校に入る前に、僕はこの勉強がしたいから、私はこういう人生を歩きたいからこの高校に行きたいというような、それが主体性だと思うので、高校は高校で、選んでもらえるような高校になってもらいたいなと思った。主体性と簡単に言うが、とても難しくて多様性とは少し違う。多様性とは逆に本当にいろいろな子どもさんがいて、それをみんなが同じように育てるとするのはとても難しいと思うので、勝山自体が本当に何を主に置くのかというと、子どものためというのが主語だと思う。それを私たち保護者も一生懸命になって進めていくことができればいいなと思う。

委員長 ・それでは中学校の方からお願いできるか。

委員6 ・今回この準備委員会に参加させていただいて、4月当初は正直何をするのか形も全く見えないという中で、中学校の保護者の賛成の方、反対の方、今のところ意見はない方、様々な方と話をさせていただいた。なるべく意見を部会の方に伝えるという思いで、賛成も反対も両方の意見を述べさせていただいていたかと思う。そういった中で皆さんが統一されているのは、子どもによりよい学びを与えたいという思いだと思っている。反省しなくてはいけないのは、大人の方、保護者の方の意見は大変たくさん聞いたが、子どもの意見は自分の子どもぐらいしか聞いていなかった。もう少しコロナ禍ではあったが子どもと生徒達と話ができれば伝えられればよかったのかなと思っている。来年以降、そういったものも汲み取っていただければと思っている。中学校のPTAとしては、正直どちらの意見の方もあるので、3中学校の会長同士で話をして、やはり正直に部会もしくは準備委員会でも話は伝えていこうということで年間過ごさせていただいた。基本計画がある程度固まってきた段階で、より賛成反対の方をふくめて具体的な話ができるようになったことが、年間非常によかったかなと思っているので、是非情報提供の方も今後も続けていただいて、よりよい議論ができるような中学校の再編準備委員会となっていいただければと思っている。

委員長 ・それでは、保育園のPTAを代表して話していただけるか。

委員7 ・施設部会の方に参加させていただいて、ZEB化について個人としては特に興味を持ったところで、省エネの建物を建てて終わりというわけではなくて、そこを子どもの学ぶ形につなげてほしい。ZEB化かでもいろいろ種類があって、まだ具体的にどのZEB化を目指すかは多分決まっていないと思うが、より高いZEB化を目指していただいて、全国でも雪国でもこれだけ高いZEB化ができるというモデルになるように、来年度以降議論していっ

てほしいと思う。

委員長 ・本当に貴重な意見やいろいろな指摘も含めて、今年度の委員の皆様にご協力いただいたことに感謝を申し上げて、今年の準備委員会を終了させていただきたいと思う。それでは事務局の方にお返しする。

事務局 ・今後については、本日お示しした基本計画（案）を最終の案として3月議会の方でご説明させていただく中で、新年度に向けての予算が議会でも大きな焦点になるので、こちらの方もお認めいただければ5年度につないでいきたいと思う。本当にこの一年間ありがとうございました。

資料1．基本計画（案）

資料2-1．令和4年度勝山市立中学校再編準備委員会の進捗について

資料2-2．令和5年度準備委員会（専門部会）検討・協議事項（案）

資料3-1、3-2．スクールバス（直行方式修正案）について

資料4．令和5年度の内容について（案）

参考資料1：第1回総務部会での意見抜粋

参考資料2：第3回PTA部会での意見抜粋

参考資料3：（合同）第5回学校運営部会・第6回施設整備部会での意見抜粋